



猪名川町立松尾台小学校 学校だより

千里同風



令和8(2026)年9月7日号

～9月は防災月間～

9月1日が「防災の日」だったことを受けて翌2日（水）の児童朝会で話をしました。

児童のみなさん、昨日は9月1日でしたが、何の日だったか知っていますか？校長先生が調べたところ、なんと29個もみわかりました。中には「キウイの日」とか「ダジャレの日」というのもありましたが、今日みなさんに紹介したいのは「防災（ぼうさい）の日」です。

これは、国や地方のお役所とかいろんな施設、またこの国に住んでいる私たちが、災害についてよく考えて、これらの災害が起きた時にどんなことをすればいいのかを準備したりするために決められたものです。

でも、どうして9月1日を防災について考える日にしたのでしょうか。

これには2つ理由があります。

一つ目の理由は、今から100年以上前の1923年9月1日に、「関東大震災」と呼ばれる大きな地震が起きたのです。この大きな地震は、阪神淡路大震災の10倍以上の広い範囲で強い揺れが、神奈川県を中心に関東地方で起きました。これによって10万5000人以上の方が亡くなられました。この日のことを忘れず災害の備えをしっかりとしまししょうと、「防災の日」にしました。

二つ目の理由は、もともと昔から9月1日ごろに台風や強い雨による災害も起こりやすかったそうで、昔の人は9月1日ごろを「二百十日」という節目の日として呼んでいました。これは、ある節目の日から数えて210日目を指しているのですが・・・今から210日前って、どんな節目の日があったかな・・・。

じつは、「立春」を提示して）2月4日ごろ 立春といって、前の日が節分、豆まきをしていますよ。

昔から「立春」、豆まきをしている節分の次の日から210日目は、台風や強い風で災害が起こりやすいと言われていました。（少し日がずれていますが、このあいだから、台風が次々と迫ってきていますね。）

この（「関東大震災」を指しながら）大きな地震が起きるずっと前から、人々は災害に気をつけないといけなないと、この時期になると考えていたのでしょうね。

また、今週の9月5日までの1週間を「防災週間」、9月を「防災月間」とされています。

今は防災週間、防災月間の期間中ですから、「災害への備えを しっかりとしまししょう」（提示）ね。自分たちでどんな準備が必要か、みんなにもできるか、掲示板に貼っておくので確かめてみてくださいね。

このような話が終わって教室に戻るときに、「校長先生、すぐ確かめたいけど、もう（掲示板に）貼ってある？」と声をかけてくれる3年生がいました。「ごめーん、このあと貼っておくから休み時間に見てね。」と返し、急いで1時間目の間に掲示しました。（・・・興味を持つタイミングは人によって様々です。こんな風にすぐに飛びついてくれる子もいます。興味を持ったことが、主体的に学ぶ動機となり学び続ける姿勢を育んでくれるものです・・・見てくれているといいですが。）

災害のすべて防ぐことはできませんが、一人ひとりの努力で被害を小さくすることはできます。台風や地震、火事などが起きた時に、「何をしたらいいのか」、「どこに避難すればいいのか」、また、災害が起きる前に「どんなものを揃えておけばいいのか」など普段から＜考えてみる＞ことから始められるといいですね。

（神戸新聞より→）



～実るほど 頭(こうべ)を垂れる 稲穂かな～

さくら通りの沿道に広がる田んぼの稲穂もだんだんと黄色く色づいて頭を垂れ始めました。桜の季節が終わって以降、徐々に移り変わっていく田園風景を視界にさくら通りを通るのが私の通勤時の楽しみの一つです。

「実るほど 頭を垂れる 稲穂かな」・・・稲穂の実が豊かに育っていく様子を見ながら、こんな句（ことわざ）があったなあと思い出します。実が入るほど重くなって地面に向かって垂れていく稲穂の様子から、知識や学問、教養が本当に深まり身についてくると、その人の人柄や行為がかえって謙虚になることのたとえです。“自ず（おのず）と周囲に対して「おかげさまで…」と謙虚になり思いやりの心をもって接することができるようになる”という意味にもつながります。知識や教養を積んだことで、すぐに思い上がったり自惚れ（うぬぼれ）たりしないようにという戒め（いましめ）の意味でも使われるとか（ん～なるほどお。）意味を詳しく知ってからは、田園風景を眺めながら心が洗われる思いになります。

また一方で、石川県や福井県をはじめ、全国のたくさんの地域では、線状降水帯の発生に伴う集中豪雨によって収穫を間近に控えた農作物に甚大な被害が出ています。自然がもたらすものとはいえ、生産者のみなさん・私たち消費者の生活への影響も心配されます。被害が最小限にとどまることを願いながら、実りの一つ一つに感謝して過ごしたいですね。

～息を吐きながら覚えると効果アップ！？～

先日神戸新聞に兵庫医科大学の研究が紹介されていました。「呼吸をしている中で、息を吐いている後半が暗記には一番効果的である」という内容です。（そういえば何かを覚えるときの呼吸なんてとくに意識したことなんてなかったなあ・・・）意識しすぎると集中できないかもしれませんが、覚えるのが苦手な人はちょっと試してみるのもいいかもしれませんよ。あれ？昔から声に出して読みながら覚えていたけど、その時息を吐いているわけだから、これも効率を上げるための覚え方だったのかもしれないね。

研究されている中村助教授も「コツを意識することで、勉強やダンスの振り付けなど、日常の身近な場面で効果を発揮できる」とコメントされています。

階段の掲示板にも紹介していますが、漢字テストが近づいたら試してみるのもいいですね。（※もっといいのは、普段からこつこつ練習して身につけることです。）

～文章を読むって大切です～

5年生が「リーディングスキルテスト」を行いました。タブレットを使って、問題文を読み選択肢から選んで回答していきます。問題の内容はいろいろな教科が一人ひとりランダムに出題されるので、巡回していても解いている問題はみんなバラバラでした。文章にはふりがなも書いてあるので、しっかり文章を読んで「何が問われているかを考える」ことが大切になります。みんな黙々とタブレットの画面に向かい、少し長めの問題文にも挑戦していました。答えは4択の中に必ず存在する（安心？）のですが、次々に出題される時間に集中し続けることはたいへんだったことでしょう。

「文章を読み解く力を育む」ことは、普段の取り組みから習慣づけることが大切です。宿題の音読の練習や読書、新聞を読むなど、積み重ねることが自分の力につながっていきます。新しい学習を増やしていくというよりも、普段やっていることを「ていねいに行う」「継続する」ことが重要なのでしょうね。



食育って大事ですね。学校の給食が「どんな献立」で、「食材」「味付け」「色合い」「栄養バランス」などどのような工夫がなされているのか、ご家庭の食卓でも話題にいただけると嬉しいです。学校HPや給食センターHPでも紹介しています。（学校のHPのコメントは参考にならない日もありますが…）